

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4077700096		
法人名	社会福祉法人 ふたば会		
事業所名	グループホームふたば		
所在地	福岡県三井郡大刀洗町大字高樋1245番地1 (電話) 0942-77-0877		
自己評価作成日	令和 5 年 9 月 2 日	評価結果確定日	令和 5 年 12 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- 事業所の周辺には田園風景が広がり季節の移ろいが見て取れる環境にあり、敷地内の事業所には馴染みの顔も見え地域との繋がりを身近に感じることができます。
- 本人の気持ちや思いを受け止めその人が望む暮らしの実現、個々の心身の状態に応じて過ごせる環境づくり、好みのものをチョイスできる自己決定に配慮した支援に力を入れています。
- 日常的な散歩やドライブ(季節の花見など)での気分転換を図り、保たれている能力を活用する生活支援を行っています。
- 家族や第三者の方に利用者の日常生活や活動の様子が伝わるような広報誌作り、ボランティア、実習生等の受入れを行い福祉職員の育成にも力を入れています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 5 年 11 月 16 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、田畑に囲まれ、自然に恵まれた場所に位置している。庭は地域に開放しており、季節の花や果実を見て季節を感じることができる。法人内の施設と協力しながら、行政との連携を図っている。管理栄養士がおり、利用者の食事の希望を反映できるよう努めている。利用者が笑顔で過ごすことができるように、一人ひとりの気持ちを大事にしながら、利用者が自分でできることはしてもらい、役割をもって生活してもらうようにしている。安全に配慮しながら、地域の中で、その人らしい生活ができるように支援している事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に理念・方針・事業目標を掲示し常に意識づけを行っている。また、職員研修や会議等でも理念や方針内容の共有を図っている。	法人の理念と事業所独自で作成した介護目標がある。介護目標の中に、地域密着の視点を取り入れている。エレベーター・玄関・事務所内に理念を掲示し、月1回の法人全体研修で、理念を唱和しており、日々理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お宮の草取り、周辺道路の清掃活動、地元の方へ園庭を開放、取れたての野菜販売、定期的なパンの出張販売、自動販売機の使用など利用者、職員共々地域の方々と交流を行っている。また、安心・安全を図るため防犯カメラを設置している。	清掃活動や夏祭りの手伝い等、主に職員が地域との関わりをもっている。散歩時等に地域住民の方と交流する機会をもつよう努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学校の実習生を受入れ介護の体験を通して、福祉人材の育成を担っている。キャラバンメイトとして、学校や民生委員等に対して認知症に対する啓蒙活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度は新型コロナの影響にて、運営推進会議は書面会議としアンケートを依頼、その意見内容について改善しサービス向上に繋げている。今年度は通常通り開催「事業計画や事業報告」日常活動や事故、ヒヤリハット等を報告し意見交換を行っている。頂いた意見はサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。利用者やサービス状況、活動内容を報告し、運営推進会議のメンバーから意見をもらっている。ヒヤリハットの書式について、会議内で出された意見を取り入れて変更する等、運営やサービス向上に活かすように取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大刀洗町の地域ケア会議等に出席し意見交換、情報共有を行っている。事業運営等についても相談できる関係を築いている。緊急性のある高齢者等に対する協力体制を取っている。(被虐待高齢者を特例入所にて受入)	日常的に、法人全体で行政と連絡・相談を行い、連携を図っている。コロナ禍前は、認知症サポーターとして、地域や行政に協力していた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「福岡県身体拘束ゼロ宣言」を掲示し身体拘束廃止に取り組んでいる。施設内研修、外部研修に積極的に参加、身体拘束廃止に対する意識啓発や人権を尊重したケアの実践に取り組んでいる。特養との連携を図り身体的拘束適正化に関する指針を定め、利用者主体のケア、身体拘束をしないケアを実践している。夜間帯のみ防犯上のため施錠をしている。	日中は玄関の施錠はしていない。外出傾向がある利用者には、外出傾向を把握し、見守りや付き添いを行っている。職員は、法人内の身体拘束に関する研修に参加している。法人内で身体拘束に関する外部研修を受講した際は伝達研修を実施している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	他事業所の虐待発生を受け、我が事として不適切なケア・虐待についての意識調査を実施、標語を掲げ「虐待の芽を野放しにしない」ケアに取り組むとともにヒヤリハトを活用し些細な事でも見過ごさないようにしている。特養との連携を図り「風通しの良い職場づくり」に取り組んでいる。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	福岡県高齢者権利擁護等推進研修 権利擁護推進員養成研修に参加、高齢者の権利擁護、尊厳を守るケアを推進できる職員を養成し身体拘束・虐待の認識等について職場内で共有している。 また、権利擁護についてのパンフレット等を常備し必要時には家族に手渡し説明できるようにしている。	福岡県高齢者権利擁護等推進研修 権利擁護推進員養成研修に参加し、伝達研修を行っている。成年後見制度や日常生活自立支援事業については、必要時に応じて家族にパンフレットを用いて説明している。権利擁護制度について、今年度中にスタッフ会議で内部研修を実施する予定である。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時において、契約する際には重要事項説明内容を説明し不明な点を確認した上で契約の手続きを行っている。 介護報酬改定により、内容に変更が生じた場合には、書面による説明を行い同意を得るようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望等の相談窓口、意見箱を設置、匿名でも気軽に意見の申出ができる体制を整備している。 利用者の日々の様子や受診報告する際にも家族からの意見・要望を取り入れるようにしている。	利用者の要望や意見を日頃から、職員は聴いている。家族には、面会や電話連絡時に、要望を確認している。利用者や家族から、趣味のミシンを入居後もさせてほしいと希望があり、馴染みのミシンを持参され、裁縫をしてもらおう等、利用者や家族の要望を取り入れるように支援している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の施設内研修やスタッフ会議を通して事業所の収支状況や業務に関する外部の情報や意見を伝える。また職員の工夫が活かせるよう役割と責任を持たせ、会議や日常機会を捉えて率直に意見が話せるようにしている。	スタッフ会議や個別で、職員からの意見を聴くようにしている。職員から意見が出たら、管理者等に相談の上、意見交換しながら取り組んでいる。安全面に配慮しながら、業務内容や利用者のケアについての職員の意見を取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人において就業規則・給与規程・育児介護休業規程等を整備している。自己啓発や外部研修への参加を積極的に促し仕事のモチベーションに繋がるように支援している。 年休は時間や半日でも本人の希望により取得しやすいようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	本人の働く意欲を大切にし、特定の理由で採用対象から排除することはない。 仕事は楽しく生き生きとすることが事業所のモットーであり、各々の職員の強みが活かせる職場づくりをしている。	職員の採用面接は、法人で行っている。採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。定年後も希望があれば、再雇用は可能である。職員がスキルアップできるように、法人内の異動、研修や資格取得希望者の支援をしている。職員が働きやすい職場環境作りをしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内外の研修に参加し倫理や尊厳について学習し人権教育、啓発活動に取り組んでいる。 スタッフ会議においても、日常のケアについて人権を尊重したケアになっているのか話し合い確認している。	法人内研修で、職員は高齢者の人権について学んでいる。研修記録が保管されている。今後はスタッフ会議でも、人権についての研修を実施する予定である。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの専門的な知識や技術を評価、向上心を見極め必要な外部研修等への参加を促しスキルアップが図れるよう支援している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国老施協、県老施協、筑後地区老施協に加入、研究大会、職員研修、交流会などに参加し他施設職員との交流を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に当たっては、事前面談を行い本人や家族との信頼関係の構築を図っている。 コロナ感染症においては、リモートでの面談や入所時に見学する等できる範囲内での関係づくりを行った。入所後は、利用者や家族が安心できるよう話を傾聴し本人に寄り添った関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込時の相談の段階から、家族の困りごと、不安なこと、要望等を聴きとり思いを受け止めている。入所後は、受診結果や利用者の心身の状態の変化などについて、その都度、連絡を入れ家族との情報共有を図っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込を受けた時、緊急性を含め、特養のショートステイを勧めたり、他事業所のサービスを紹介するなどの支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ひとり一人ができる範囲での家事手伝いや裁縫、掃除等を職員と一緒にしている。 手伝ってもらって嬉しい気持ちや感謝の言葉を必ず伝えることを心掛け、利用者にも満足感を味わってもらえる関係づくりをしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診時は受診結果について報告するとともに生活状況も伝え家族との情報共有を図っている。面会時においても近況を伝え本人を家族とともに支えていく関係を築くようにしている。 家族へ配布する広報誌の掲載にもホームでの日常生活が見て取れるように工夫している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には家族の方に利用者の馴染みの人や場所などの聴き取りをしている。 敷地内の小規模多機能事業所に行き、馴染みの方と話す機会を設けたり、家族と共に行きつけの美容室や整骨院に出かけられるよう支援を行っている。	職員は、利用者の馴染みの人や場所についての情報を利用者や家族から聴いている。 馴染みの美容室に家族と一緒にいたり、利用者の自宅に突っ込んでいるキンカンを取りに職員と一緒にいたり、ドライブの際に馴染みの場所を通る等、馴染みの場所や人とのつながりが継続できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、声掛けの順番や座席の配置など配慮した支援を行っている。 利用者一人ひとりが落ち着いて過ごせるようパーソナルスペースを配置、テレビ番組などでトラブルが起きないように工夫している。利用者間同士お互いに声かけ気配りし支え合える関係もできている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方にも、行事等にお誘いするなど、気軽に立ち寄れる関係を大事にしている。退所されたご家族の方には運営推進会議の委員として継続して参加して頂き情報交換を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に利用者の思いを聞きながらその人らしい暮らしの実現に努めている。 家族の方に、利用者の生活歴を聴き取り、職員等の思い込みではなく、今までの暮らしの継続に近づけるよう支援を行っている。	入居前に家族から、丁寧にアセスメントを取り、利用者の生活歴からも人となりアセスメントしている。日々の生活の中で利用者の意向等を職員が聞き取り、利用者中心の生活ができるよう支援している。ミシンが好きな利用者については、居室に自宅で使用していたミシンを置き、自宅と変わらない雰囲気を作っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族から生活歴などの聞き取りをしている。入居後も受診報告時や面会時に近況報告するなかで家族から新たに以前の暮らしぶりや生活歴などの話を聞くこともある。 常に家族との情報共有を図りながらその人らしい暮らしの把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活のあらゆる場面で本人の「できること」「できないこと」を把握し、可能な限り家事を手伝って頂いている。一日の生活は本人のペースを大切に、本人らしく生活して頂いている。パーソナルスペースなど、その人に合わせた空間づくりに努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議において、利用者の現状を話し合い情報の共有を図るとともに心身の状況に変化がある場合は、プランを見直しその内容を家族に説明し同意を得るようにしている。また、日々の生活状況や身体機能に変化が生じた場合にもミーティングを行い訪問看護、特養の理学療法士に助言指導を仰ぎ現状に即したプランを作成している。	利用者や家族の意向を尊重した介護計画を作成し、定期的にカンファレンスで計画の見直しを行っている。医師や看護師、理学療法士等、専門職にも意見を聴きながら、多視点を踏まえた計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を記録に記入するとともに連絡ノートや申し送りを通して情報の共有を図っている。また、心身の状態に変化があり観察が必要な時には24時間シートを活用、日常ケアにおける気付きについても会議のなかで意見を出し合い、ケアの見直しに繋げている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科やビューティーヘルパーなどの外部サービスを受入れ、個々のニーズに即した支援を行っている。 自宅での行事等がある場合、送迎が必要な時には送迎支援も行うようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭り、お宮掃除、園庭の散歩に出かけ果実(梅、サクランボ、柿)の収穫など身近な地域資源を活用し、四季折々の暮らしの楽しみを支援している。 同一敷地内にある小規模多機能事業所の顔馴染みの住民との交流を支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人や家族が希望する医療機関を確認するとともに施設のかかりつけ医や協力医療機関等を説明し必ず同意を得るようにしている。受診の際には職員が同行、日常生活状況や家族の意向などをかかりつけ医に報告し情報共有を図っている。受診結果についてはかかりつけ医の所見を家族へ報告している。	入居前に、かかりつけ医の聞き取りと嘱託医の説明を行い、利用者と家族の意向に沿った対応を行っている。通院については職員が同行し、受診後に報告書を作成し、家族に報告している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療と連携し毎週(火)訪問看護師来訪、利用者の健康チェックを実施している。その際に日々の健康状態や気になる事を報告し必要な助言を受けている。必要時にはかかりつけ医に訪問看護師の指示内容を伝えていく。緊急時には、母体の特養看護師に応援要請できる協力体制を取っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時には、面会・洗濯物を取りに行き、看護師や担当医師に利用者の状態を確認している。退院前のカンファレンス等にも参加、医療関係者との情報交換を行うなど病院との関係づくりを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重要事項説明書とともに重度化した場合の対応指針についても説明を行っている。心身機能の低下による医療的ニーズが高く、施設での対応が困難な場合には、かかりつけ医や本人・家族との話し合いを持ち、住み替えがスムーズに移行できるよう特養及び医療関係者との連携を図っている。	対応できる内容については、契約時に重要事項の説明と共に行っている。体調等の変化については医師に伝えて対応方法を聞き、法人内の特別養護老人ホームと連携する等、最適な支援ができるよう対応している。事業所での対応が困難になった場合は、利用者や家族、主治医と話し合い、今後について協議している。協議した内容については、朝礼時やスタッフ会議、ショートミーティング等で情報共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応マニュアルを作成し苑内研修において勉強会を実施、看護師から応急手当の指導を受け、初期対応の知識・技術を習得している。AEDの手順を何時でも実践できるよう訓練を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大刀洗拠点での防災計画、消防計画を整備し、地震や水害の避難訓練、また昼間想定・夜間想定での避難訓練(初期消火訓練・通報訓練含む)を定期的実施している。非常食等を備蓄し賞味期限など定期的に管理している。地域との防災協力体制については、運営推進会議において検討している。	火災、風水害、地震、Jアラート発動時の対応マニュアルと災害時の食事マニュアルと献立を整備している。避難訓練は年2回昼間、夜間想定ともに実施しており、その都度通報訓練も行っており、消防署の協力も得ている。法人の特別養護老人ホームの避難訓練に毎回職員が1名程度参加している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し尊厳の思いを持って言葉かけに努めている。トイレ誘導、失禁時の声かけにもプライバシーに配慮した対応を行っている。職員間で不適切なケアを見聞きした場合には、スタッフ会議に持ち出しケアの改善に向けた話し合いを行っている。	排泄時はトイレの外から見守り、入浴時も肌の露出を最小限にする等、工夫して、羞恥心等への配慮を行っている。食事についても利用者それぞれのペースで対応している。職員が気付いたことはミーティング等で議題にし、情報共有している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者本人が自己決定が出来るような声掛けを行っている。自分の思いや要望が、言葉で上手く表現できない方には選択しやすい声掛けを行い、耳が聞こえない方に対しては筆談やジェスチャーにて思いを確認するなどの対応をしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活スタイル、本人のペースに合わせた生活を大切に日々の状態に応じた支援をしている。レクリエーションや散歩、行事等においては本人の意向を重視、思いに添った支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の後は自前の化粧水やクリームを使用しビューティーヘルパーの日には髪型の希望を聞いて女性としての身だしなみを整える支援をしている。また、行事の際には好きな色のマニキュアや化粧を選びおしゃれを楽しむ機会を設けている。季節の衣服の入替は家族に協力を依頼している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話やレクリエーションのなかで好みの食べ物をリサーチ、暦行事や誕生会の献立、おやつ作りを活かしている。また、お弁当やケーキなど自分が食べたい物をチョイスできるよう食事の楽しみを支援している。利用者の残存機能を活かした食事の準備や片付けを職員とともに行っている。	食事中は職員が寄り添い、和やかで安全な環境を作っている。利用者は、洗い物やお盆拭き等、個々の能力に応じて、職員と一緒に片付けをしている。食堂から調理の風景が見えて家庭的な雰囲気を感じられる。誕生会の際には利用者の意見を聴き、弁当を外注したり、お菓子作りをする等、食事を楽しむことができるよう工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分摂取量のチェック、定期的な体重測定、半年毎のアルブミン値を把握し栄養状態の観察をしている。食事については管理栄養士の指導の下、一人ひとりの嚥下状態に合わせた食事形態、食事量を考慮して提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯の状態に合わせた口腔ケア用具を使用、本人の残存能力に応じた介助を行い口腔内の清潔を確保している。義歯については、毎日(夜)洗浄液での消毒を行い管理している。口腔内に問題が生じた際には訪問歯科医との連携を図り助言指導を仰いでいる。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、一人ひとりの排泄パターンや排泄状況を把握しその方にあつた排泄支援を行っている。尿意のない方に対しては時間毎に声掛けを行いトイレ誘導している。尿臭や尿量、排便困難者に対してはかかりつけ医に報告しその都度、指示を仰いでいる。	排泄、食事、水分チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握している。日中は可能な限りトイレでの排泄を実践し、おむつやパッド等は状況に応じて使用している。全職員が情報を共有できるように引き継ぎ書等で、特記事項として情報等を記載し、内容が共有され、支援に活かされている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の対策として、体の運動・食物繊維を多く含む食事・乳製品の提供、水分を多く摂るなどの工夫をしている。便秘傾向のある利用者に対しては、かかりつけ医へ相談、指示を仰いでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた入浴の支援をしている	浴槽は個浴・リフト浴双方可能な設備を設置、本人の身体状況や残存機能に応じた支援をしている。その日の気分や体調に合わせて本人の負担にならない入浴支援をしている。また、毎日の入浴を基本としているが入浴拒否がある場合には無理強ひせず、利用者の気持ちに寄り添って対応するようにしている。	毎日入浴できる体制を整えており、希望があれば毎日入浴することができる。利用者のその日の気分や体調を考慮して支援している。入浴中に利用者や歌を歌ったり、入浴剤を使用したりと、リラックスできるよう心がけている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のその日の体調や気分配慮し、居室での休息、短時間の昼寝など、気分転換が図れるよう支援している。季節に応じて室内の「温湿度」を確認し安心して眠れる室内環境づくりに努めている。寝具などの入替えは家族の方にも協力を依頼している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤は薬剤師が管理、薬情書は個人別にファイルし職員が常に確認できるようにしている。薬の処方に変更が生じた際には、受診報告書に記載し送りノートで周知徹底を図っている。薬の服用により症状等の変化や気になる事があればかかりつけ医に報告し指示を仰いでいる。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者との日常会話の中、アソビリレーションの中で生活歴や好きな事などを聴き取り、一人ひとりに適した楽しめる時間をもてるよう支援している。 ※ミシンがけ		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、園庭の散歩、ドライブ、四季の花見に出かけ、季節の移ろいを感じる支援をしている。また、近隣の公園へ遊びに行き、地域の方と触れ合う機会を設けている。家族の希望があれば外出や外食等の支援も行っている。	天気が良い日は庭や近くの公園を散歩して、利用者が気分転換できるよう支援している。コロナ禍前は、初盆や結婚式等に行くための支援も行っていた。現在は受診時にドライブスルーを利用したり、利用者の自宅に実っている果実を収穫に行く等、感染状況をみながら外出を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にはお金を自由に使えるよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との連携を図り、本人の希望があればいつでも電話をかけることができ、携帯の持ち込みも可能としている。また、自分で書いた手紙なども出せるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、リビング、事務所、廊下など一体化した繋がりのある空間になっており、ご飯を作る台所がみえ生活感あふれる環境にしている。 「温湿度計」をそれぞれの場所に設置し室内管理をしている。窓には遮光が可能な木製のブラインドを設置している。	テレビの前にはソファが置かれ、利用者のお気に入りの場所になっている。壁には、行事の写真や、職員と利用者が一緒に作った季節の飾り物を飾っている。利用者がくつろいで、居心地よく過ごせるよう配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを配置、気兼ねなく休息する空間を確保、リビングの一角にはソファを配置、共用空間の中でもひとりで過ごせる居場所を確保している。心身の状況に変化があった場合には理学療法士の助言・指導を仰ぎながら、机や椅子などの配置を考慮し居場所づくりの支援をしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの家具や寝具、こだわりの物を自由に持ち込むことができ、落ち着いた空間で過ごせるようにしている。 本人の希望があれば居室にテレビを置き、好きな時間にゆっくり見れるようにしている。	ベッド、エアコン、クローゼットは備え付けで、ベッドは体形に合わせて調節可能である。自宅で使用していた家具や椅子等が持ち込まれていて、自宅での生活の延長のような居室となっている。馴染みのミシンやテレビを持ってきている利用者もいる。利用者が安心できる空間づくりに努めている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は段差もなくバリアフリーで車椅子の方でも自由に移動が可能となっている。階段・廊下には手すりを設け、安全な移動を確保、身体機能に応じた低床ベットやL字バーを設置、危険を早めに察知する人感センサーの活用等、安心安全な環境づくりに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		